



平成22年度 農林水産大臣賞（東北ブロック最優良事例）

みんなで取り組み、みんなで作る、なごやかな田沢頭のむらづくり

『田沢頭自治会』

（山形県西置賜郡小国町 田沢頭地区）

【むらづくりの経緯・動機等】

◆田沢頭地区は、小国町の中心部から北に約2km離れた場所に位置する山間集落である。◆非農家世帯の増加や、戦前からの戸主制度の体質により、自治活動の停滞や連帯意識の低下が懸念される中、昭和54年に「田沢頭自治会」を立ち上げ、全員参加のむらづくりをスタートした。◆昭和61年には「田沢頭むらづくり推進協議会」を発足させ、住民自らが作成した振興計画に基づくむらづくり活動を展開してきた。◆さらに平成19年には、農地・水・環境保全向上対策の導入を契機に「田沢頭グリーンネット（通称：タグネット）」を発足した。発足当初、合意形成に向けたワークショップや聞き取り調査を行い、150項目以上の提案を住民から拾い上げた。この提案を10のテーマに整理し、自治会の新たな活動計画として策定しており、地区住民が一体となったむらづくり活動に取り組んでいる。

＜位置図＞



【推進体制】

◆「みんなでつくろう、なごやかなむら」をテーマに全員参加によるむらづくりを展開している。◆田沢頭自治会は総務部、産業部、教養部、生活厚生部により構成され、拠点施設整備や里山整備等の活動を行っている。◆また、「農地・水」の共同活動や営農活動はタグネットとして活動しており、エコファーマー8名を中心に、非農家も含めて地域全体で取り組んでいる。◆なお、各種活動は、地元薬品会社、JA、おぐに五穀の会、商工会等様々な団体と連携しながら取り組みを進めている。

＜地区の概要＞

事項	内容
地区の規模	集落（1集落）
組織の性格	地縁的な集団
農家率 （内訳）	47.2 % （総世帯数 36 戸） （農家数 17 戸）
販売農家数 （内訳）	17 戸 （専業農家 1 戸） （1種兼農家 4 戸） （2種兼農家 12 戸）
主要作目 （作付面積等）	水稲 （ 26.6 ha） 野菜 （ - ha） 肉用牛 （ 304 頭）

資料：国勢調査、農林業センサス、作物統計調査（H17年）

【農業生産面への寄与状況】



◆地元薬品会社の副産物である木炭、木酢液^{えき}を活用し、化学肥料や農薬の使用を抑えた特別栽培米「おぐに木酢米^{もくさくまい}」を生産しており、地区内水稲作付面積の8割を木酢米が占めている。◆また、集落内の遊休農地解消対策や景観対策として、女性たちが中心となり、遊休農地を活用して雑穀を栽培している。雑穀を活用した創作料理やレシ

ピ作りに積極的に取り組んでおり、今後は、雑穀料理の提供などの取り組みが、女性たちの収入確保につながることも期待されている。◆さらに、町内に組織されている「おぐに五穀の会」などと連携して雑穀を使用した商品開発を行うなど、6次産業化に向けた取り組みが活発化しており、今後の展開が期待されている。

【生活・環境整備面への寄与状況】

◆集落内に生息するチョウセンアカシジミ（※）を保護するため、トネリコの木^{トネリコ}の木の保全・植栽を実施している。◆また、集落の宝として大切にしてきた「田沢頭ため池」の周辺に、手作り公園「なごやかパーク」を住民の手で整備し、住民の憩いの場となっている。◆さらに、遊休農地を活用して、親子農園、ふれあい農園を開設し、町内に在住する親子や県外からの転勤者との交流活動を実施している。こうした農作業体験を通じて、食育の推進、コミュニケーションの強化などが図られており、これら交流活動の定着・拡大により、将来的には定住人口の増加につながることも期待されている。



※ チョウセンアカシジミ

岩手県、山形県、新潟県の限られた地域に分布する希少なチョウで、トネリコ^{トネリコ}の木を主な食樹として卵を産みつけ、繁殖する。

レッドデータブックの絶滅危惧Ⅱ類、山形県の天然記念物に指定。

